

各 位

令和 5 年度稲作情報 第 8 号について

このことについて送付しますので、業務および水稻栽培の参考にしてください。

令和 5 年度 稲作情報 第 8 号

唐津農林事務所 東松浦農業振興センター長

1. 気象概況(観測点:唐津アメダスデータ)

※表記方法:6 半旬別(1ヶ月を 6 分割。1 半旬は 1~5 日となります。)

気温:平均 降水量・日照時間:合計

※平年値:平成 22 年~令和 2 年(11 か年)の平均値

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	比(%)	本年	平年	比(%)
6	1	21.4	20.9	0.5	26.2	25.2	1.0	17.4	17.3	0.1	15.0	18.2	82	26.2	27.3	96
	2	20.7	21.4	-0.7	25.1	25.4	-0.3	17.6	18.2	-0.6	26.5	27.2	97	18.3	24.5	75
	3	23.0	21.9	1.1	28.0	25.7	2.3	20.1	19.0	1.1	0.5	40.5	1	28.0	22.3	126
	4	23.5	22.4	1.1	30.0	26.1	3.9	19.4	19.6	-0.2	0.0	54.5	0	45.1	20.6	219
	5	23.0	23.0	0.0	26.9	26.6	0.3	20.5	20.4	0.1	63.0	65.1	97	16.7	17.8	94
	6	26.7	23.9	2.8	30.0	27.3	2.7	24.1	21.3	2.8	57.0	73.6	77	6.1	14.8	41

6 月 6 半旬の平均気温は平年より 3℃程度高く推移した。曇雨天が続き、日照時間は平年の 4 割と短かった。

2. 生育状況

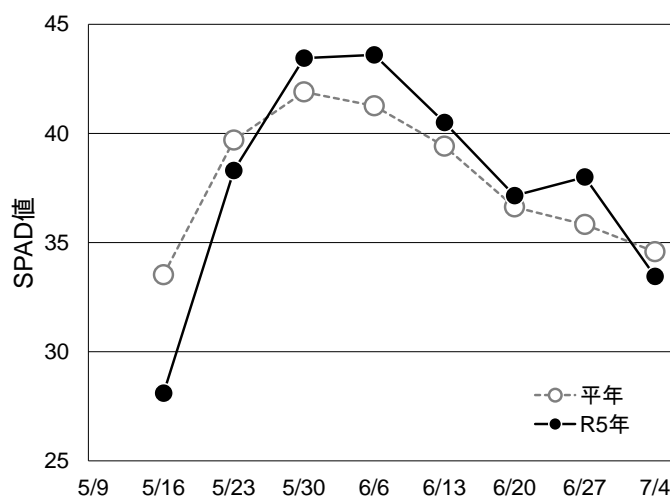
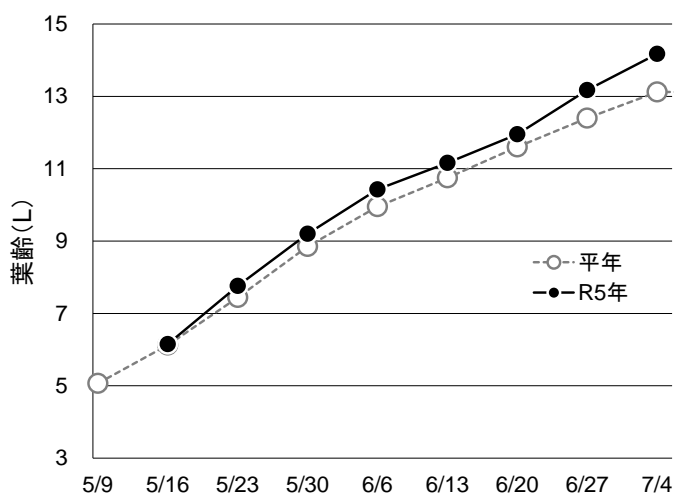
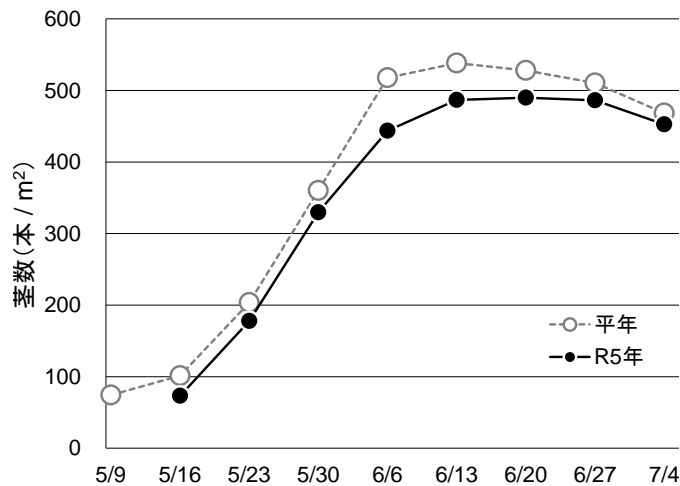
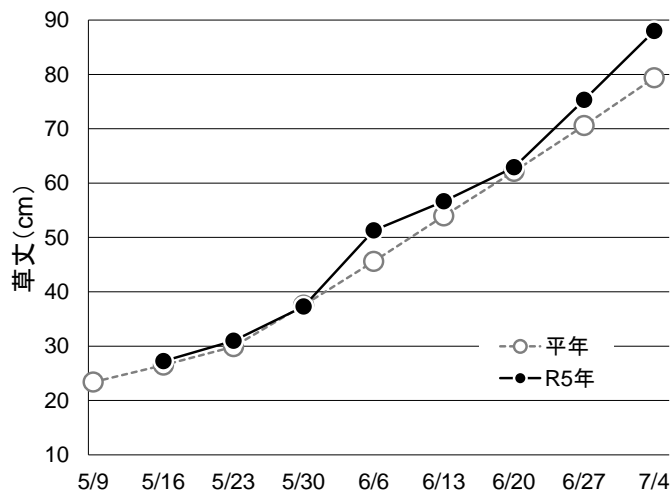
上場コシヒカリ情報田調査結果 鎮西町潟 4 月 21 日移植 17.8 株/m²(59 株/坪)

(7月3日調査結果)

項目	本年	前年	平年	前年比・差	平年比・差	備考
草丈(cm)	88.0	92.9	79.4	95	111	高い
茎数(本/m ²)	453	477	468	95	97	平年並
葉齢(L)	14.2	13.4	13.1	0.8	1.1	早い
葉色(SPAD)	33.5 ^注	34.1 ^注	34.6	-0.6	-1.1	やや薄い
葉色(葉色板)	3.3	3.8	—	-0.5	—	—

※平年値:平成28年~令和4年までの値から最高・最低値を除いた平均値

注)止葉



高温・寡照の影響で草丈の伸長が進み、平年より 9 cm 高い。葉齢は平年より早い。調査株の 9 割で止葉が抽出している。莖数は少なく推移していたが、現在は平年並みである。葉色は大きく低下し、平年よりやや薄い。7 月 3 日時点の幼穂長は 17.6 cm (最高:20.6 cm、最低 11.9 cm) である。走り穂も見られ、まもなく出穂期を迎える。



3. 今後の管理について

(1) 水管理

- ・4月下旬に移植された圃場では7月9～15日頃に出穂する見込みです。出穂前後(穂ばらみ期～穂ぞろい期)は最も水を必要とするため、間断灌水を継続するか浅水管理としてください。降水量が多い場合は深水にならないよう注意してください。ただし強風の場合は、稲体の水分収奪や稲体の動揺による茎葉の損傷を軽減するために深水としてください。穂ぞろい期以降は間断灌水にします。
- ・5月中旬以降に移植された圃場では幼穂形成始期を迎えています。間断灌水に移行しましょう。

(2) 病虫害防除

① カメムシ類

- ・斑点米カメムシ類の予想発生量^{注1}は平年より「やや多い」ため注意が必要です。乳熟期(出穂14日後頃)に薬剤防除を実施してください。飛来が見られた圃場では糊熟期にも防除を行ってください。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となります。例年斑点米カメムシによる被害が見られる圃場では、出穂10日前まで(止葉が完全に抽出する前まで)に除草を行いましょ。出穂10日前までに除草作業ができなかった場合は黄熟期まで見送るようにしてください。出穂直前以降に除草を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長されます。

② ウンカ類

- ・田回りをを行い発生状況に注意してください。今後の発生状況によっては臨機防除が必要になります。

③ 紋枯病

- ・予想発生量^{注2}は平年より「やや多い」ため注意してください。昨年多発した圃場では菌核が圃場に残り、本年も発生するおそれがあります。株元の病斑発生状況を確認し、出穂前防除を実施してください。

④ 穂いもち

- ・予想発生量^{注3}は「平年並」ですが、管内ではすでに葉いもちの発生が見られています。止葉や上位葉に病斑が見られる場合は、穂ばらみ期(出穂前)に薬剤防除を実施してください。

※散布にあたっては薬剤の使用時期を十分に確認してください。

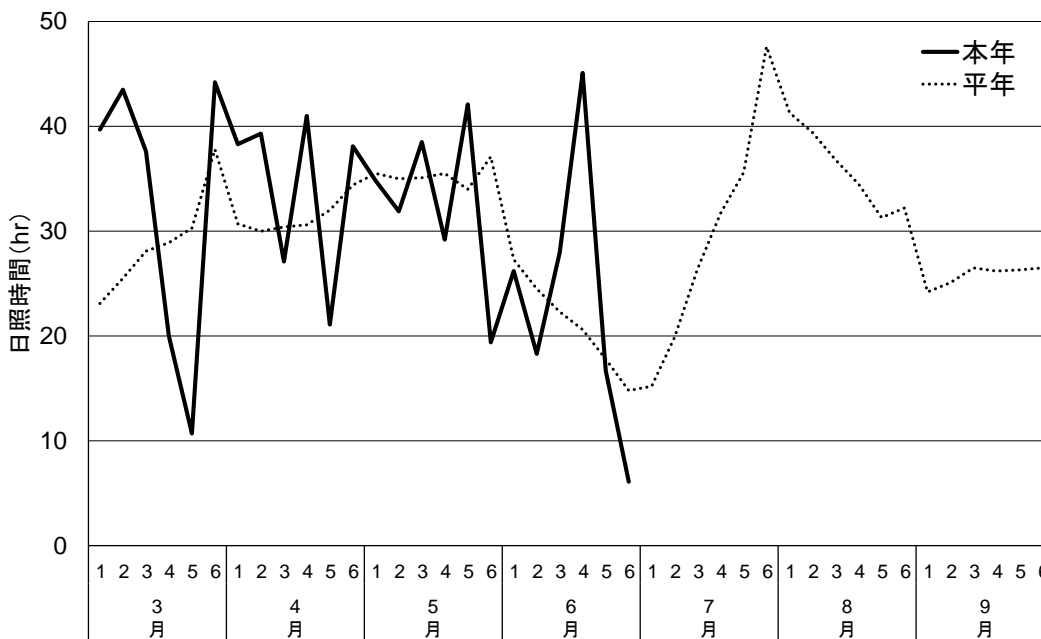
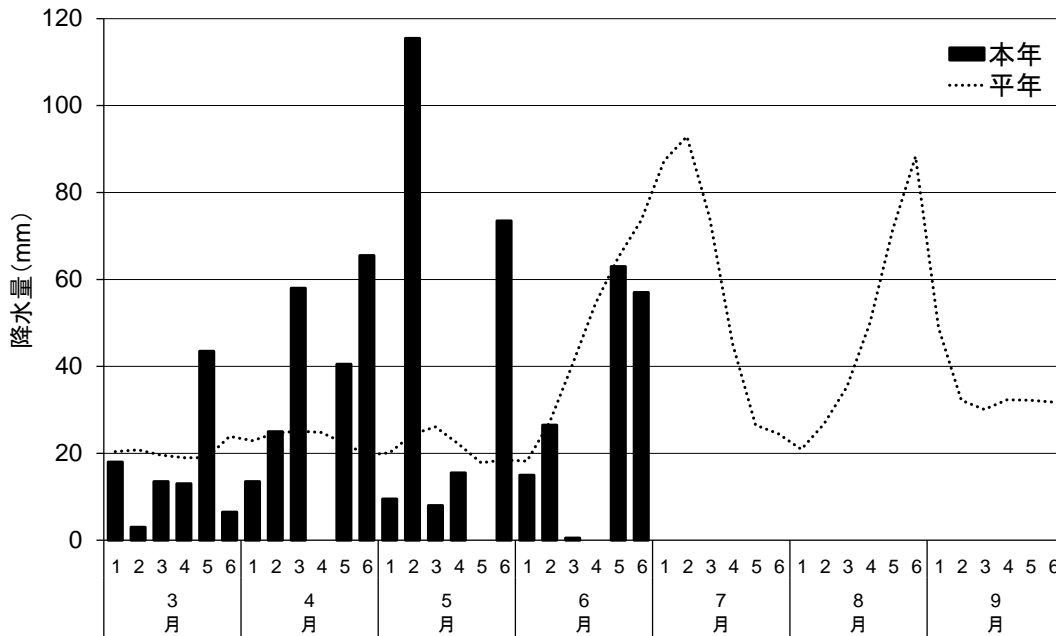
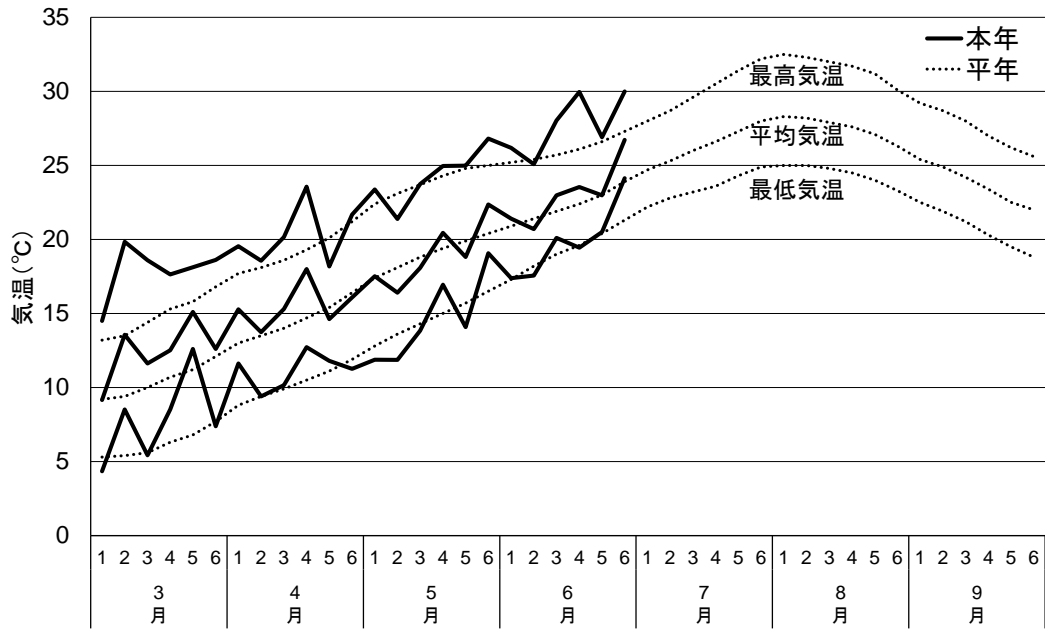
※県認証制度特別栽培に取り組んでいる圃場では、使用可能な薬剤の成分数に上限があるので注意してください。

注1～3)病虫害発生予察情報予報第3号(農業技術防除センター)

いもち病防除薬剤

薬剤名 (成分名)	本剤の 使用回数	本成分の総使用回数	使用時期	注意事項
コラトップ粒剤5 (ピロキロン)	2回以内	本田2回以内	葉いもち:初発10日前～初発時 穂いもち:出穂30～5日前まで	湛水散布
ビーム粉剤DL (トリシクラゾール)	3回以内	本田3回以内	収穫7日前まで	穂ばらみ期での 散布効果が高い
ダブルカット粉剤3DL (カスガマイシン・トリシクラゾール)	2回以内	カスガマイシン:本田2回以内 トリシクラゾール:本田3回以内	穂ぞろい期まで	
ブラシン粉剤DL (フェリムゾン・フサライド)	2回以内	フェリムゾン:2回以内 フサライド:3回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆に かからないよう注意
ノンプラス粉剤DL (トリシクラゾール・フェリムゾン)	2回以内	トリシクラゾール:本田3回以内 フェリムゾン:2回以内	収穫7日前まで	たばこ・大豆・小豆に かからないよう注意

令和5年産 水稲作付期間気象図 アメダス観測値(唐津)



注) 平年値: 平成22年~令和2年の平均値